

令和元年度第1回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 あいさつ

日置副市長あいさつ

2 諮問

日置副市長より岡島職務代理へ諮問

3 議題

- (1) 「人口ビジョン」の改訂及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定方針
- (2) 北名古屋市の人口動向及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況



<事務局>

【資料3 「人口ビジョン」の改訂及び「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定方針の説明】

【資料4 北名古屋市の人口動向の説明】

【資料5 北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の説明】

<会長職務代理>

事務局から人口動向と総合戦略の進捗状況についての説明を受けた。

本日示された「人口動向」については、合計特殊出生率など、全ての数値が出そろっていない状況の中、現在作業を進めることができた分について、次期戦略策定のバックデータとして示された。市としては、人口は上振れの傾向となっているけれども、「人口ビジョン」は、国、県においても、現状、目標の人口を据え置く方針であることから、北名古屋市の人口ビジョンについても、目標は据え置き、時点修正のみの改訂を行うとのことであった。今後、国や県の動向を見ながら、引き続き、事務局で検討していただき、人口ビジョンをまとめ、ある程度目途がついた段階で、改めてお示しいただければと思う。

一方、総合戦略の進捗状況としてKPIと施策の振り返りを行われた。次回、事務局より総合戦略の骨子案を示していただくにあたり、委員の皆さんのご意見やご質問を伺いたい。

<委員>

まずお聞きしたいことが、合併して13年になり、合併時よりも人口が6,000人くらい増加しており、ピークはおそらく2～3年後を予想され、目標値は81,500人とされていると考えるが、今色々な話を聞いていて現在、清掃工場ができたり様々な事業が進んでいるが、今後、調整区域から市街化区域への変更などの予定はあるのか。今後の土地利用の変化が2060年の人口の状況にかなり影響するように感じるが、北

名古屋として農地の活用にどこまで力を入れるのか、それともベットタウン化に力を入れるのか少し気になった。とりあえず市街化区域への変更に対して何か計画はあるのか。

<事務局>

市街化区域の変更については、建設部が作成している都市計画マスタープランに西春駅周辺にある市街化調整区域を市街化区域にするといった案があるが、具体的なものではなく絵を描いている状況である。現状、市街化区域の変更については、方向が示されていない状況である。北名古屋市については、まだ市街化区域内に農地があり、そこが宅地並み課税となることから、その農地がまだ土地開発されるといった余地があると考ええる。

<委員>

北名古屋市は生産緑地といった制度は始まっているか。

<事務局>

生産緑地制度は合併して市になった時に始まっていて、更新時期についてはまだ先である。

<委員>

実績が0になっている「障害者への交通費助成による就労支援数」だとか「地域貢献事業等促進奨励金による託児施設設置数」について周知はどのように行っているのか。折角制度があっても利用者が知らなければ利用されないため、周知方法について教えていただきたい。

<事務局>

「障害者への交通費助成による就労支援数」については、社会福祉課でこういったところで就労するか様子を見ながら支援する中で、制度の周知自体はしている。ただし、障害者の就労支援の数あるなかの1つの制度であり、この制度を利用して就労するといったことにマッチする方が少ないといった現状である。

<会長職務代理>

非常に限定した制度になっているのであれば、K P Iとして少し変更した方が良い項目かもしれない。

<委員>

託児施設についても同様のことが言えるのか。

<事務局>

自家用車で通われるかどうかといったこともあるが、最近、徳重駅近くに民間の託児

施設ができた。そこはすぐ埋まってしまうといった状況である。親が出勤するついでに駅で託児できる場所がニーズとしては高く、自分の働いているところに預けることよりもそちらに人気が出ているのではと考えている。奨励金を出すとなると託児施設に条件が付与されるため、その条件に対して事業者が難色を示すといったこともある。

<委員>

社会増減と自然増減の両輪を注視しながら、人口問題に対して対策をしていかないといけない。社会増減に対して少し怖いと感じるのは若年女性が少し転出傾向にあり、自然増減に関係することでもあるためこれに関して考えていかないといけない。K P Iについても、シティープロモーションに関する部分が若干弱いように感じる。岩倉市はそこまで資源が無い中、「いーわ暮らしやすい」など一生懸命PRをしている。それとともに、若い女性が住むか住まないかを決めるのは、駅近くの治安が大事であると考えている。徳重名古屋芸大駅の開発の際には、そこも考えていただきたい。治安と防犯についての現在のK P Iも安心して暮らせるまちをめざすには、少し弱いように感じるためもう少し練っていただきたい。外の人も中の人も北名古屋が安全だなと感じ取れるようにしていただきたい。そこで防犯カメラに関して個人で設置する際には補助金が出るのか。

<事務局>

現状、個人設置に対する補助金はない。自治会でもどこに設置するか合意形成を図るのが難しいといった現状もある。また、個人に補助をする場合、防犯対策として道路側に向けて設置することを補助条件にすると、個人情報との関係から設置を敬遠されることもあるため難しい部分もある。K P Iの新たなものについては、総合計画の防犯の部分に目標値を設定したものが他にあるためそこから選択することも検討したい。

<委員>

若い女性が減少していることも問題であるが、出産と育児の部分も少し弱いように感じる。どのように妊娠と出産の支援をしていくのか、現状のK P Iからは見えにくいように感じる。結婚の支援、第1子出産の支援、多子出産の支援と段階的に支援を目指す数値の設置を検討していただきたい。

<事務局>

必要に応じて適切なK P Iの設置を検討していきたい。現在、子育てコンシェルジュといった取り組みもしており、そういったところから活用できるものがあれば掲載していきたい。

<委員>

M字カーブのところで、出産した後の労働状況が改善されているのではないかとといった見解があったが、経済状況の変化から女性が働かざるをえない状況になっている可能性もあるため、共働きが必須になっている状況であればよりそういった子育ての支援が

必要であるため、そこは現状に満足するのではなく少しニーズの掘り起こしが必要になってくるのではないかと感じた。K P I 指標の部分については、高齢者の活躍支援のところで、高齢者の活躍とは実際何かを少し検討して欲しい。今は70歳の方も労働力として活躍してほしいと言われている中、余暇を楽しむことが高齢者の活躍とは言えなくなっているのではないかと感じる。また、移住定住の部分でよく子どもの医療費が無料ではないので子育てが厳しいといった意見を聞いているが、そういった中で無料じゃないことを考えても、北名古屋市は子育てに魅力があると発言される方も見える。その方は、そういった部分をアピールした方が良いと言ってみえて、移住定住を目指すなかで北名古屋市は子育て政策に十分お金を使っていることはわかっているので、その所をきちんとPRしていただきたい。

<事務局>

昨年、定住の促進を図ることを目的として、医療費は無料ではないが教育などに力を入れているなどわかるPRチラシを作成した。今後もそういった市をPRする取組みを続けていきたい。

<委員>

しごとを作るという事で、いま沖村地区で企業誘致がなされ、大きな企業が立地されることで人の流れが変わることが考えられる。移住定住施策と企業誘致を絡めていけば社会増に関してかなり有利に働くのではないかと考えている。先々として、名古屋市との合併を市長が検討するといったことを言われているが、この先5年間でまた話題に上がってくると考えられる。そういった時に北名古屋市が何か先進的な事を実施していれば、名古屋市がそれを真似するといったことが起こりうるかもしれない。それが出来れば、吸収ではなくきらりと光るものがある北名古屋市と一緒になるんですよと話ができる。沖村地区の開発とは別に何か大きなプロジェクトがあるのであれば、それも総合戦略に含めていろんな要素がちりばめられれば面白い計画となる。

<委員>

子育て関係のところで、小規模保育施設数が増えているという事で、徳重の駅前で直ぐに埋まったという話もあるが、0歳児保育のところがやはりニーズが高いことが考えられる。子育て支援センターの利用者数が増えないことの要因の一つが、未就学児を対象としている子育てセンターより前の0歳で既に働かなければいけないお母さんが増えていることが考えられる。なので、0歳から預けやすい市にしていくという施策を考えていくことが必要かもしれない。また、就労している人がどれくらいの割合でいて、なのでこうしなければいけないといった連動していけると良い。赤ちゃんの時から安心して預けられて、その後は子どもの教育力の向上にも力を入れているといった、連動している事業があれば、若い人たちが出ていくことも減るのではないかと。また、北名古屋市の住宅は高いといった話も聞くが、それでも子どものためにも頑張る親はいると思うのでそういった親を助けることができれば、増えていくのではないかと考える。放課後子

ども教室などが全地域で完備されていますよという事が、市外へ周知されていない。教育レベルの向上という事であれば、偏差值的に周りの市町村と比べて北名古屋市はどの程度なのか知っておくことが重要で、高いのであれば周りにアピールしていく必要がある。実際にどれ位なのかどんどん知らせる必要があるのではないか。

<会長職務代理>

内外へのPRが不足しているのではないかと、皆さんの意見を聞くと感じる。折角いい施策をしているのに、あるいは環境があるにもかかわらず皆さんに知っていただいていない。そういったところを一つずつクリアしていくことが将来の人口を維持するといったことや市の発展に大切ではないかと思うので、今回の委員皆さんの意見を事務局にはご配慮いただきたい。

議題はここまでとする。

本日皆さんからいただいたご意見を基に、事務局で検討していただき、次回の委員会で骨子案をお示しいただきたい。

4 その他

<事務局>

第2回及び第3回の委員会の日程については、第2回を7月23日（火）の午前10時から、第3回を8月20日（火）の午前10時から開催させていただく。

<会長職務代理>

これにて委員会を閉会とする。

【閉会】

配布資料	資料1	北名古屋市行政改革推進委員会委員名簿
	資料2	諮問書（写）
	資料3	「人口ビジョン」の改訂及び「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定方針
	資料4	北名古屋市の人口動向
	資料5	北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況